



# レッドピル



私たちは、親どうしが別れても、子どもの成長に双方が引き続きかわる、共同親権・共同養育の実現を求めて活動をしています。親どうしの都合に左右されることなく、ずっと親子であることを実感できるべきだと考えています。しかし日本では、夫婦が別れるとき、父親か母親の一方に親権を定めなければなりません。そのため、親権を持たない親が子どもの養育を続けたいと思っても、その権利が保障されず、一切子どもと会うことができない人が多くいます。子どもの親として、本来立場は対等です。にもかかわらず現状は、親権を持たない親は、親権を持つ親に許可を取り、子どもに会わせてもらう必要があります。そもそも、この「親権を争い、どちらかが負ける」という構図が正しいのでしょうか？

私たちの訴えは大きな反響を受けました。「男が子育てを主張するなんて」「バックラッシュだ」「会えない親に問題がある」というのです。こういった主張の背景に、男女の性的分業をめぐる差別感情があると私たちは気づきました。「男性(父親)だから」「女性(母親)だから」という無意識の偏見を取り除かない限り、子どもが両親の愛情に身を委ねられる社会はできません。この問題を提起するため、米国の話題作「レッドピル」を国内で上映します。男性の被害者性を無視する極端なフェミニズムの論理に対し、男も女も疑問の声を上げはじめた米国の現状を知り、本当の男女平等とは何かをみんなで考えましょう。

■上映スケジュール 各回13:30上演

2018年 **5月5日(土)** **子どもの日**  
会場 立川アイムホール(東京都立川市  
曙町 2-36-2)  
JR 立川駅北口から徒歩 7分

**6月17日(日)** **父の日**  
会場: 京都府立大学・稻森記念会館  
(京都市左京区下鴨半木町 1-5)地下鉄  
烏丸線北山駅 1 番出口徒歩 5分

**7月21日(土)** **共同養育の日**  
会場: 全労連会館ホール(東京都文京  
区湯島 2-4-4)JR 御茶ノ水駅御茶ノ水  
橋口徒歩 8分

入場無料

共同親権運動ネットワーク (k ネット) 「レッドピル」日本上映委員会

協賛 日本家族再生センター ■TEL: 0265-39-2116

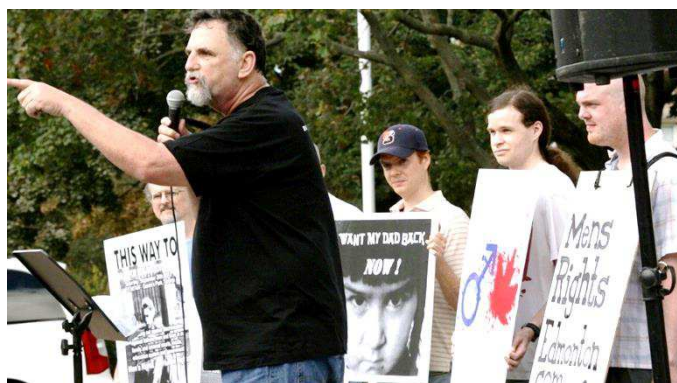
■e-mail: [contact@kyodosinken.com](mailto:contact@kyodosinken.com) ■ホームページ: <http://kyodosinken.com>

# 映画「レッドピル」—The Red Pill—



フェミニスト（女性の権利を主張する立場）の女性監督キャシー・ジェイが2016年に製作したドキュメンタリー映画。キャシー自身がマスキュリスト（男性の権利を主張する立場）達にインタビューしながら、「女性が弱い、不利な立場にある」という自らの信念に疑問を持ちはじめます。取りあげるテーマは、親権の問題に限らず、男性が兵士をはじめとした危険な職業につかされる問題、男性のDVや性虐待の被害、男性から見たリプロダク

ティブライツ……男性たちもまた、社会の中で犠牲を払い、不利益を被っているのではないかと気づきはじめてたのです。オーストラリアで上映が妨害された話題作。



## 「共同親権」とは

親どうしの関係はどうあれ、双方の親が子育てに関わり続けること、その考えを「共同親権」と言います。

親権という言葉は、海外では「親責任」や「親の配慮」という言葉に置き換えられてきました。

両親が子どもの成長のさまざまな場面で決定にかかわることで、子どもは親に大切にされているという実感を持つ

ことができます。一組でも多くのカップルが共同子育てを実現すること、私たちは、それが可能な社会づくりを目指しています。

## 【立川アイムへの行き方】



【JR 立川駅】 北口から伊勢丹右側の歩行者デッキを北へ道なりに進みます。パレスホテルを過ぎたところでデッキが東（右）に折れます。最初の建物が女性総合センターです（1階と5階です。2階から4階は中央図書館です）。

【多摩都市モノレール立川北駅】 国営昭和記念公園方面出口から歩行者デッキへ降りて、右折し高島屋前を通過、突き当りを左折し、パレスホテルを過ぎたところでデッキが右に折れます。最初の建物が女性総合センターです。